

<全体分析>

試験時間 75 分

解答形式

記述, 計算, 論述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

時間のわりに計算問題が多い。

その他トピックス

理論, 無機, 有機とまんべんなく出題されている。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[I]	記述 計算	ハロゲンとその誘導体 溶解度積 結晶	化学	ハロゲンとその誘導体の性質と反応, モール法, 塩化セシウム型の結晶の密度などを問うている	標準
[II]	記述 計算 論述	化学平衡 電離平衡 水の三態変化 気相平衡	化学	気相平衡の関係式の誘導, ルシャトリエの原理, CH_3COONa の液性や緩衝液の計算, 凝固点降下の冷却曲線の読み取りや計算問題などの総合問題である。	標準
[III]	記述 計算 論述	脂肪族化合物 芳香族化合物 合成高分子化合物	化学	アルケンの構造推定, マレイン酸とフマル酸の性質の論述, 陽イオン交換樹脂, フェノール類の構造式, ビニロンの計算などの内容である。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 理論・無機・有機をまんべんなく学習しておくこと。
2. 基礎的な事項を十分整理してマスターしておくこと。
3. 記述問題もあるので、平素から書く練習をしておくこと。
4. 計算問題は、正確な計算力をつけておくこと。
5. 問題演習を十分に行っておくこと。
6. 高分子も十分に演習しておくこと。
7. 実験装置・操作についても、注意しておくこと。